

熊本・南阿蘇の特養

# 地震で職員の1/3が交代

## 村内サービス確保も課題

「4月に何年かぶりに入職式を行った」。2016年4月の熊本地震の影響で、人手不足に悩んでいた特別養護老人ホーム陽ノ丘荘(社会福祉法人順和会、熊本県南阿蘇村)。今年に入って15人の介護職員を採用し、吉村浩介・総合施設長は「3年たつてやっと地震前と同じサービスができる」と話す。しかし、住民の高齢化と人手不足の中、村内で必要な介護サービスをどう確保していくか、という課題にも直面している。(榎戸新)

陽ノ丘荘は地震で断水や停電はあったが、建物の被害はほとんどなく、利用者も無事だった。

しかし、施設の約2ヶ所の阿蘇大橋が崩れ、通勤に大きな影響が出た。片道20分だったのが、迂回すると2時間かかるようになった。

通勤の負担が重くなった。通勤の負担が重くなった職員が辞め、3年間で法人内の職員153人のうち、3分の1が入れ替わった。

17年8月によく別の橋が通れるようになり、通勤の便が良くなったことが少しずつ広まった。人材確保のため、村内の介護事業



4月入職の後藤ちひろさん。「人と関わるのが好き」

者で合同就職説明会を開いたり、県が介護施設応援事業を行ったりもしている。

さらに以前に比べて村内の介護事業者の給

与も上がった。

同法人では夜勤手当を倍増の9000円にしたり、調理員など介護職員以外にも手当をつけた。吉村総

合施設長は「職員待遇を第一に考えている。経費を差し引いて残った額を人件費に充てる方法では勤め続けられない職場にならない」と

強調する。

同法人では3年間の介護報酬収入総額から人件費の上昇分を含めた予算をつくり、計画的に取り組んでいる。人件費比率は77%にも上るが、光熱水費、オムツなどの消耗品代などあらゆる経費を見直して切り詰めているという。

人材育成にも力を注ぐ。同法人の介護職員95人のうち、9割にあたる86人が介護福祉士を取得している。

こうした法人の方針は職員に伝わり、他に負けないサービスを提供しよう、加算を取得しよう、という雰囲気職場に広がり、その取り組みが利用者のサービスの質の向上につながっている。

実際、デイサービスの利用者(延べ人数)は17年度と18年度で減ったが、加算取得などで収入は約300万円増えた。

地震直後も混乱の中で職員が精力的に動き、デイサービスを早期に再開することがで

きた。吉村総合施設長は「職員一人ひとりの成長を頼もしく思う」と話す。

◆ 19年3月末の南阿蘇村の人口は地震前(16年3月末)から1割減の1万513人。ただ65歳以上人口は107

人増えて4234人(高齢化率40%)となり、10年、20年先には相当の介護サービスが必要になることが想定される。

今後也十分な人材確保が見込めない中、1事業者単位ではなく、村内全体で介護サービ